

はしがき

私自身は、社会保障法を専攻して、いつの間にか30年以上が経過した。当時は、大学で社会保障という名称がつけられている講義はそんなに多くなかったように記憶している。しかし、現在は、社会福祉・看護系の大学が増えたばかりでなく、社会保障関係の講義は、文学部、法学部、経済・商学部、教育学部、医学部など広範な学部にもわたって実施されている。また、福祉施設・事業所も増加し、それらのサービスを与える福祉労働者の量と質の確保が課題とされるようになってきた。本書は、こうした状況を踏まえて、大学、専門学校、事業所で、社会保障の講義や研修をしている若い担当者が集まって、受講生にわかりやすく説明できるテキストをつくらうと企画されたものである。

本書を執筆するにあたっては、以下の2点に気をつけたつもりである。1つは、社会保障制度に関する最新の情報を提供することと、それぞれに課題や将来展望を書いてもらったことである。2つ目は、介護福祉士・社会福祉士養成課程における教育内容や国家試験科目が見直され、新たに権利擁護や就労支援サービスといった科目が導入されたので、これに対応できるものにしようとしたことである。大学や専門学校で社会保障を学ぶ学生のテキストとして、また資格試験を受験する者の手引きとして、その両方で役立つようにと欲張って企画したものだが、その期待に答えているかどうかは、読者の判断に待つ以外にはない。いずれにせよ、本書が、学生や資格試験受験者の皆さん方に社会保障に対する興味を持ってもらい、その理解に少しでも役立つことができれば幸いである。

最後に、本書の刊行までにさまざまな面で支援をいただいた法律文化社編集部の小西英央氏に著者を代表して厚くお礼を申し上げたい。

2010年3月

編者 石橋敏郎